

第三回北海道レフェリーアカデミー活動報告書

オホーツク地区 鈴木辰汰

日時：2025年5月10日、5月11日

【1日目】

会場：帯広北高等学校グラウンド、・清流の里福祉センター

時程：8：00 集合

9：30～13：20 試合実践

14：10～14：50 試合振り返り

15：00～16：00 講義「ハンドリングの反則」「第四の審判員」の基本を整理する（今川 RAI、岡田 RAI）

16：10～17：10 講義「レフェリングについて②～判定～」(山崎裕彦氏)

17：20 解散

担当試合：帯広北高校 vs 駒沢大学付属苫小牧高校（副審）

帯広工業高校 vs 白樺学園高校（副審）

〈講義感想〉

最初に第一回から行っている審判の基本を整理し虎の巻を作るということで、今回は「ハンドリングの反則」「第四の審判」について参加審判員で考えを深めた。あらためて一から一つずつ考えを深めることでいろいろな経験をしていく中でないがしろになっている部分や考えてこなかった部分などが出てきて自分の中で考えを整理することができた時間となった。

次に山崎氏の判定に関しての講義を受けた。実際の映像から何が起きる可能性があるのか、何が起きたのか、強度は？コンシダレーションポイントは？といったように理由や根拠をもって判定をしていくことの重要性を再認識した。

【2日目】

会場：帯広大谷高校グラウンド、帯広大谷高校会議室

時程：7：50 集合

9：00～12：50 試合実践

13：00～14：00 トレーニング「前回の講義を活かして」（岡田 RAI）

14：00～14：40 試合振り返り

14：50～15：40 講義「現代に求められる（速さ・縦に早く）」（岡田 RAI）

15：50 解散

担当試合：帯広大谷高校 2nd vs 帯広緑陽高校 2nd（主審） 担当 INS：伊藤 RAI

〈自己分析〉

前回のアカデミーで課題となっていたハンドリングの反則、副審との協力の部分に加え判定するために「走る」ということを意識した。ハンドリングの部分や副審との協力はおおむねよかったといえる。また、判定に対する自信もありそれは判定のために「走る」ことができている証拠であるように感じた。しかし、走ることを意識して一つの事象に対して距離を近くして見ようという意識のあまり、突っ込みすぎて選手がプレーをキャンセルした時やこぼれ球が自分のところに流れてきたときなどに巻き込まれる場面が多々あったので、次は走るコース取りやどこに向かって走るか等考えながらやっていきたい。

〈INS 分析〉

事象の近くに主審が常について、リード感を持って選手をアテンドしていたという印象です。シグナルも大きく、笛も明瞭で とても良かったと思います。特にカウンター時に一生懸命に事象の近くに行く姿勢は素晴らしいと思います。しかし、その 時に事象ばかりにフォーカスしすぎるため、ボールが予想外な 動きをした時に巻き込まれるシーンが何度かありました、事 象に直線的に動くのではなく、1.5 mほど隣のレーンを走る イメージで動いてみると予想外や、次の展開（視野を確保 できるので）にも対応しやすくなるように思います。今後もいろいろな試合で実践し振り返り改善し、またトライ してもらいたいと思います。

〈講義感想〉

今回は現代サッカーのトレンドから審判員には今フィジカル的に何が求められているかを考えた。現代サッカーでは縦に早い攻撃が主流となってきたため、審判員もそれに対応できるようにするという事で、どんなトレーニングをしたらよいかを考えた後に具体的なトレーニング映像を見て考えを深めた。最近はなかなかトレーニングを十分に行えているとは言えないのでこれからさらにやらなければという危機感を持った。

【全体を通して】

今回第3回目となる研修会に参加しました。1回目よりも2回目、2回目よりも3回目といったように前回の課題を解決しまた新しい課題を見つけるという非常にいいスパイラルの中にいることを実感しています。これから、試合数も増え沢山の経験をする機会があるので一つ一つをただこなすのではなく自分の審判技術の向上に向けて意識的に意欲的に取り組んで学んでいきたいと考えています。

今回派遣して頂いたオホーツク地区サッカー協会の皆様、担当して頂いたインストラクターの皆様、試合の機会を頂きました十勝地区サッカー協会の皆様、チーム関係者の皆様誠にありがとうございました。